

いの流水俳壇

「当季雑詠」

間 浩太選

人動き街も動けり水温む

小野川町子

(評)寒さが緩むと、水もそれほど冷たくはなく、そこには、もう春が来ている。人には卒業・入学・就職・転職など、親も子も、希望と夢、そして不安を持ち、人生の節目のときで、思えば多くの人が動くときと言えます。この多くの人の動きによって、商店街も、デパートも、人の往来が激しくなる。水温む(水ぬるむ、春の季語)「人と街が動く」で春の大きな一面を表した、この句に感心しました。

春耕の後に ついてく鳥の群

竹崎たかひろ

(評)春となると凍った田畑の土も融け、地中の虫や卵・種子など鳥の飼になるものが多く生じてくる。香長平野の広い田で働くときは、耕耘機のところ、鳥が集まって来て、すぐそばに来たり後へ行ったりして動きまわって、耕耘機や農の人と遊んでいるように、見えるときがある。瑞穂の国の原風景である。この句の作者は、「川柳」の先生であり、耕耘機と鳥の状況に面白味というか滑稽味を感じて、良い句ができたと思ったことである。俳諧味とも通じる。

目白二羽上がり下がりのリズム感

岡村 嘉夫

(評)庭の木に目白(眼白と書く本がある)が二羽、または四五羽来て遊んでいるのを部屋から硝子戸越しによく見る。

四季日本にすむ留鳥だが、俳句では秋季としている。目のまわりに、光沢のある白い環がある。かわいらしく、鳴き声が良いので人に愛される。

物の動き、運動には、リズムがあるものである。周期の長いものはわからないが。

この句は、目白の上がり下がりリズムがあるとしており、こう感じるのには相当の時間、目白を見て発見したのである。凝視が作句には大切であると言われるのは、このことか。

楮蒸す釜跡残る廢虚かな

野本 則昌

(評)クワ科の落葉低木のコウゾは製紙の目的で、山の斜面などに植えられる。暖かくて、水はけの良い土地が適し、高知県が多く産し、土佐紙の原料となる。

楮の茎を刈り取って大束に括り、大釜に立て、その上に蒸桶という大桶を被せ下から蒸す。蒸し上がった楮の皮を剥いて乾かせば製紙の原料となる。

最近あまり、見ることは少ないが、山間ではところどころより湯気と煙が立ちのぼり郷愁を誘ったものである。

「楮蒸す」は冬の季語となっているので、投句する場合にはその時の季語で投句してください。

はね返す水のかがやき猫柳 刈谷 志津

手毬唄ふと口に出て春の月 津田 久美

春光や瓦工場白熱す 井上 郁子

ひな祭り三色餅の宅急便 弘瀬うき子

雪洞に昭和の明り点しけり 植田 紀子

母娘してあれやこれやと雛の夜 友草 水月

熟睡の明け破る猫の恋 森岡 照月

抱き癖も一つの話題離の客 岡本とも子

春の雪ときめきながら句座終る 田蔦恵美子

蟻地獄土やはらかく堂の床 片岡 包女

手話ならぬ手真似混じりて八十路春 大川 節弥

白梅や母校消ゆる日吾八十路 筒井 正子

計の多き過疎の里なり梅真白 竹崎 光子

囲碁に負け悔しさ言わず寒さ言う 松尾満津於

日脚伸び影も両手を振つてをり 間 浩太

次 題 「当季雑詠」五句
締め切り 毎月五日

投句先

社会教育課

いの町3597

吾北教育事務所

893-2012

上八川甲2010

867-2133



平成23年度いの町体育会長杯スカッシュバレーボール大会出場チーム募集

- ▶ 日 時 6月12日(日) 9:00~開会式
- ▶ 場 所 高知県立青少年体育館(天王)
- ▶ 加 資 格 いの町在住及び町内で勤務している方、又は町内チーム在籍者で編成されたチーム、招待チーム(いずれも18歳以上とする。)
- ▶ 参 加 料 1チーム 600円
- ▶ 部 門 女性の部、混合の部(青年・壮年)

- ▶ 申込締切 5月30日(月)
- ▶ 申し込み 伊野公民館 月曜日~金曜日 9:00~17:15 FAX 893-2013
- ▶ 問い合わせ いの町体育会スカッシュバレー部 池島 893-0179